

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

古満目

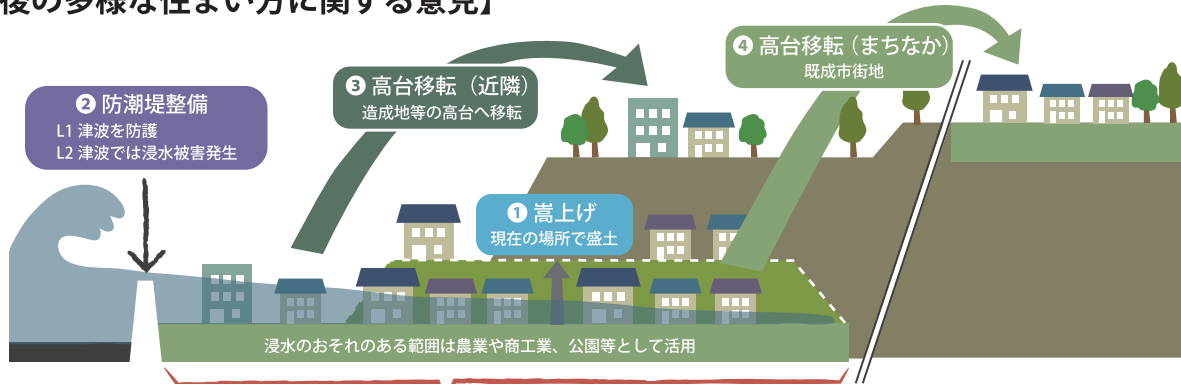
第2号

【地区としての復興の方向性】

●漁業と文化でつながるまち

- ・水浴びせなど、地域の文化を繋ぎたい
- ・若い人の意見を聞くことが大事
- ・漁業など地元の生業を復興しないと若い人は戻ってこない
- ・漁をするのに戻ってきたい人が多いのではないかな
- ・復興できたら漁師（大敷網）を続けたい

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

- ・人口地盤をして、全員が暮らせる大きな施設
- ・嵩上げまでして、戻ってこない。現実的じゃない

② 防潮堤整備

- ・少々堤防を高くしたって、気休めにしかならん

③ 高台移転（近隣）

- ・もし再建するなら、坪ノ後に良い場所がある。提供もできる。
- ・宅地造成も現実的じゃない
- ・交通の便、買い物が不便

④ 高台移転（まちなか）

- ・町営住宅に入れたらいい
- ・平山、頭集など、弘見じゃなくてもいいな

- ・移るなら弘見がいい
- ・漁をするのに、弘見からの通いでもいい！

- ・弘見に土地を整備しても元の地区の人達でまともて欲しい

県外へ行く

- ・子どものところに行く
- ・友達の家

- ・家族のところに行った後、戻って一人暮らしをするのは難しい

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月5日（土）19:00～21:00、古満目交流センターにて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



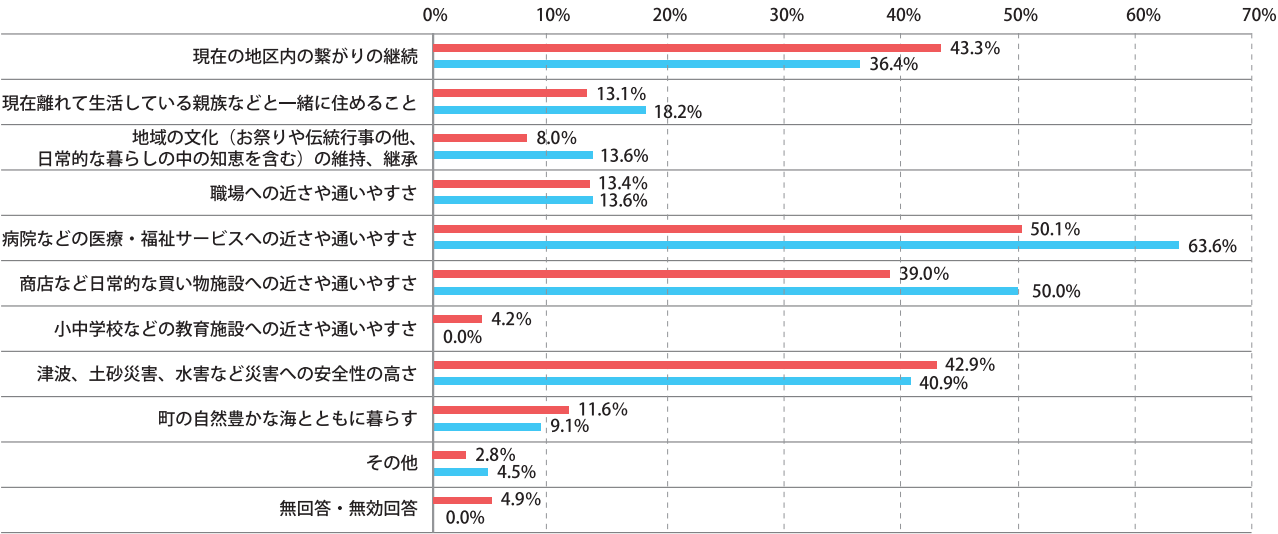
津波の前に…

- ・地震での家屋の倒壊が心配
- ・がけ崩れが怖い
- ・高い所が多い
- ・岩盤の土地が多い
- ・実際どうやって逃げるか？

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

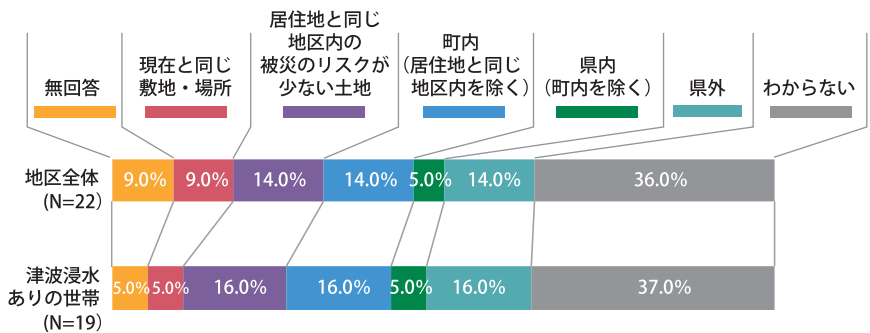
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



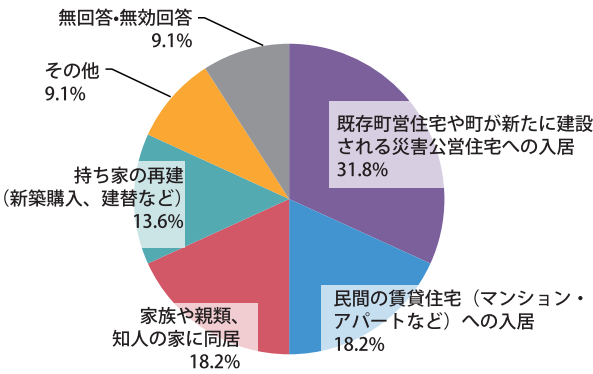
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。古満目地区では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 63.6% と最も多く、次いで「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」が 50.0% となっている。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所について、古満目地区全体では「わからない」が 36%、津波浸水の予想される世帯でも 37% と最も多く、被災後のイメージを持ちづらいと思われる結果となった。次に多かったものについても、地区全体では「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」、「県外」が 14%、浸水が予想される世帯でも同じ項目が 16% となり、地区全体と浸水の予想される地域と類似している。

●復興の際の住まいの形態 (N=22)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 31.8% と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅への入居」、「家族や親類、知人の家に同居」が 18.2% となった。